

青少年問題を考える

海蔵地区青少年問題協議会会長 平野昭夫

昨年は、毎日の様に校内暴力が新聞をにぎわせ、私達青少年問題に携わる者や、年頃の子どもを持つ父母にとって、誠に由々しい一年でありました。

従来、生徒が先生に暴行を加えるのは、卒業式か、その前後に多かったように記憶しておりますが、最近では、日常、時・所を構わず起っている状態です。それも今迄は、大都市やその周辺だけ……と考えられていたのが、県内で、市内でと報道されるにつれ、いよいよ私達の身の周りにも悪の手が追ってきているという思いに駆られるのであります。

青少年を非行に追いやる原因は、一体何なのでしょう。それは、生活が豊かになったこと

最近、表彰を受けられました個人、団体の方々をご紹介します。各功績にわたり、長年ご尽力されたその功績に対して授与されたものです。今後も引き続きお世話下さいますようお願いいたします。(広報部掌握分)

【被表彰者の皆さん】

- ☆消防・県精勤章 広瀬実三(万古町)
- ☆消防・北勢支会表彰 徳丸喜平(野田二丁目)
- ☆消防・西阿倉川三區 笹岡健一(西阿倉川三區)
- ☆三重県共同募金会会長表彰 四日市支会海蔵分会
- ☆三重県精神衛生協会会長表彰 伊藤博子(西阿倉川二區)
- ☆社会保険片長官表彰 海蔵婦人会
- ☆全国交通安全協会会長表彰 地区交通安全母の会

やら、相変らずの受験戦争、劣悪なマスコミや文化の氾濫、親の子どもに対する無理解、価値観の変化など、思い起こせばいくらでも考えられますが、これらが相互に深くかわり合っていることが、子どもたちにとって良くない環境、非行の土壌を作っているものと思われま

研修会を開催する

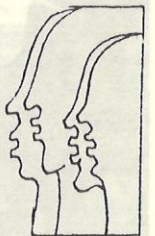
こうした中で、昨年十一月、青少年問題協議会と地区市民センターとが共催で、「青少年問題を考える」講座を開催致しました。はじめての試みのため、小・中学校PTA各役員、補導

参加を得ることが出来ました。講師の佐藤・辻先生による、「子どもの気持ちをよく知り、対応しよう」、「地域で何をすべきか」の話には、参加者一同大きな感銘と教訓を受けました。今後は、役員のみならず、子どもを持つ父母を対象に、こうした専門家の話を聞く機会を設け、新たな家庭、地域づくりの輪を拡げてゆきたいと思っております。

委員、育成会の役員の方々のみに限定しましたが、毎回多数の協力をお願い致します。



元気になわとびをする子ら。この子たちに明るい明日を



主張

最近の子供は、「働かなくなつた」とよく言われます。確かに今の子供は、働くことをいやがり、働こうともしません。では、なぜこのような子供が増えてきたのかを考えたとき、その理由として、親が子供を働かせなくなつたことがあげられます。総理府が出した国際児童年記念調査によると、日本の子供の手伝いの時間は、アメリカの

働く子供をとりもどそう！ 労働の苦しさ喜びを

きまりなどを学び取ってきたのです。しかし、現在はこういう機会がありませんから、子供は働くことの大切さが分からないのです。そこで、学校では全校作業や清掃活動などを通して労働を体験させたり、教科指導を通して勤務の精神を養うようにしています。今年はいまは、ゆとりの時間を活用して、草ぬきや校舎の整理整頓に全校で取り組みました。また、校区の方からお借りした畑でさつまいも作りもしました。三学期からは、児童会が中心になって朝の五分間そうじをするようになりました。御家庭でも、ぜひ子供と共に働く時間を作ってください。

昔は、親と子供が共に働くことが普通でした。共に働くことにより、親は子どもに労働の意義や尊厳を教える、子供は自然の仕組みや法則、人間として生きていくための

海蔵小 山本